

改訂学習指導要領がめざす「主体的で対話的な深い学び」を実現する「考察・研究型社会科授業」のために、資料館や公文書館の資料はどのように活用されるべきか。

石黒 隆一 （石狩市教育委員会学校教育主事）

1. 泉氏からの質問

事務局 泉亮子氏が、国立公文書館の研修Ⅱに参加

学習指導要領が改訂され、小学校から高校まで、また生涯学習にもつなげて、資料館や公文書館の資料を使用した歴史学習が順次開始されるとの講義を受講。

歴史の学習方法が従来の全国画一的な暗記中心型から、地域史学習も含む資料館や公文書館の資料を使用した考察・研究型に変わるという説明を受ける。

このことに関して、泉氏が講義内容について本懇話会で報告。

関連して、「教育委員会や市内の学校で、既に話題になっているか、具体的にどのように指導するかといった検討はなされているのか」という趣旨の質問を受けた。

2. 学習指導要領改訂に係る各学校の現状と教育委員会事務局の見解

教育委員会では2月に、各学校から、学校評価と関係者評価および次年度学校経営方針に関するヒアリングを実施し、指導助言を行っている。

学習指導要領改訂に関しては、「主体的で対話的な深い学び（アクティブ・ラーニング）」、「特別な教科・道徳の実施」、「小学校5.6年における外国語活動の教科化」「プログラミング教育」の実施が、各学校の喫緊の課題となっており、学校評価や学校経営方針にも具体的な検討内容が記載されている。

「歴史の学習方法を、地域史学習も含む資料からの考察・研究型に変更する方法」が、教育委員会や市内学校で実際には話題に上る場面は見られなかった。

このことは、「学びの質の向上」に関わる「主体的で対話的な深い学び（アクティブ・ラーニング）」の具体的な課題であり、学習指導要領移行措置期間の現在、石狩管内教育研究会社会科部会（小）（中）や石狩市教育振興会社会科部会（小）（中）の専門的な分野では、先行事例が蓄積されている。

歴史学習の質の向上にとって、資料館や公文書館の資料活用は、重要な鍵を握る可能性を有している。

「公文書館の活用」という文言は改訂高校学習指導の地理歴史編に限定されるが、ここでは「資料館公文書館等」と、広く解釈した上で、小学校中学校の各画集指導要領社会科の改訂移行措置段階で、学校の現場でどのような需要が存在するか、本市における先行事例を通して考察する。

3. 事例「石狩市教育振興会学校課題研究発表会 中学校社会科授業」

日時：平成30年11月16日（金）。対象生徒：浜益中学校3年A組。授業者 相澤智教諭。

単元：「第3章 現代の民主政治と社会 3節 地方自治と私たち 3 地方財政の仕組みと課題」

（1）授業の概要

（授業者のねらい・指導案より）私たちの住む石狩市浜益区（旧浜益村）は、2005年（平成17

年)に厚田村とともに石狩市に編入合併している。自分たちの住んでいる地域を通して、地方財政の課題について石狩市の財政から考えさせたい。地方財政の課題を考える上で、国とのつながりや、少子高齢化などの課題についても関連して考え、市町村合併に至った背景から、自分たちの住んでいる地方自治について、近い将来、主権者として地方自治に関わっていく事を視野に入れ、考えさせていきたい。

(2) 市教委からの指導助言と情報提供

旧浜益村と石狩市の合併をテーマとする授業であるが、教科書にしたがうと本時部分の単元が「地方財政の仕組みと課題」に相当することになる。授業者は、市役所の財政課や図書館に足を運び、「財政」に関する資料を集め教材研究を行っていた。

「財政」に着目して授業を構想したため、当初の指導案の「課題」に対する「まとめ」は「国から地方公共団体に支出される地方交付税交付金や国庫支出金が減額されることにより、依存財源の割合が大きい浜益村は、人口減少や少子高齢化が激しいため、村として維持していけなくなるから合併した」となっていた。この点については、否定的な要素が強すぎ、「義務教育終了後、生徒が地域を離れなくてはならないため、生徒の郷土愛を育てる」という浜益の教育方針との齟齬に、授業者自身が悩んでいた。

市教委としての事前指導にあたっては、授業者が「本時の目標」に記した「多面的・多角的」のイメージの説明として話された「豊富な自然・新たなまちづくり・農水産業の振興」が重要な側面になるので、その意図を重視して授業作りを行うよう助言し、次のような行政資料を提供した。

- ・「合併まちづくりプラン」石狩市・厚田村・浜益村合併協議会 2004 年
- ・「合併協議会ニュース」石狩市・厚田村・浜益村合併協議会 2002 年 2004 年
- ・「第 5 期石狩市総合計画」石狩市 2018 年 「同(案)」2014 年
- ・「地域の力を結集した浜益小沖揚げ音頭再構築の構想～子供たちの心のよりどころとなる郷土愛の涵養～」(公教育システム研究)北海道大学大学院教育行政研究グループ 2010 年

結果的に、以下に示した指導案(本時案)と、生徒のワークシート例から明らかなように、すぐれた授業となり、参加者から非常に高く評価される結果となった。

4. 授業の実際(本時の学習から)

(1) 目標

- ・地方財政の課題や市町村合併に至った背景について多面的・多角的に考え、その過程や結果を適切に表現している。
(社会的な思考・判断・表現)
- ・地方財政の歳入や地方財政の課題について、統計資料を基に的確に読み取っている。
(資料活用の技能)

(2) 展開

学習内容・学習活動		教師の指導及び支援の手立て・教材	□評価規準 ■評価方法 ☆研究との関わり
導入 5分	○前時の復習 一問一答式による指名	○パワーポイントを使って前時の学習を理解しているか確認する。	□前時までのことが理解できているか。
	問題 なぜ浜益村は石狩市と合併したのかを考えよう。		☆ICTの活用(PP)

展開 10分	○地方公共団体の財政歳入について読み取る。 ・地方税、地方交付税交付金、国庫支出金、地方債など ○浜益村と石狩市の歳入の財政グラフを比較し特徴について読み取る。 ○市町村合併が行われてきた背景について考える。	○歳入の内訳とその意味について理解させる。 ○浜益村と石狩市の歳入の財政グラフを比較させ特徴について気づかせる。 ○自主財源と依存財源の割合に気づかせる。 ○石狩市の住民アンケートと浜益村の住民意識の違いから市町村合併に至った背景について考えさせる。	□資料の読み取りが出来ているか。 【資料活用の技能】 ☆ICTの活用 (PP) ■発表・プリント
展開 25分	○インターネットでの調べ学習を行う上でのキーワードや、調べ方を確認する。 ○個人で調べる。 インターネットを活用する。 ○ペアで交流し発表する。 ・調べてわかったこと ・参考とした資料の提示 ○全体で発表して交流を行う。 ・調べてわかったこと ・参考とした資料の提示	○個人で調べる際にどのような資料があればよいか考えさせる。 見たらよいサイトについて助言する。 ○ペア交流が出来るように助言する。 ○学び合いができるように助言する。 ○AppleTV を使用し iPad のデータをTV に映し出す。 ○ICT 機器を使って発表の補助を行う。	☆ICTの活用 (iPad) □予想したことや調べたことをもとに発表できているか。 【資料活用の技能】 【思考・判断・表現】 ☆ICTの活用 (iPad・書画カメラ)
まとめ 10分	○今日の学習のまとめを行う まとめ 財政状況や少子高齢化の状況から、合併することによって、国の財政支援があること。住民サービスの向上や産業面の振興に期待ができること。2村には石狩市にはない農・水産資源や豊富な自然があり、新たなまちづくりに展望が持てるため。 ○自分たちの住んでいる石狩市の財政に関心を持たせつつ、近い将来、主権者として地方自治に関わっていく事を念頭に置いて考えさせる。		

5. まとめ・学習指導要領改訂にもなって資料館や公文書館はどのように活用されるべきか

石狩市教育振興会学校課題研究会の中学校社会科の授業作りから、学習指導要領改訂の趣旨を反映した「主体的で対話的な深い学び」をめざし、「地域史学習も含む資料からの考察・研究型」の授業が実際に行われ、学校と教育委員会が連携する事例を紹介した。

学習指導要領改訂にもなって、授業作りのために学校が資料を必要とし求める場面が大幅に増大することが予想される。この事例のように、行政資料が求められる場合は、図書館で対応することが困難なことが予想される。

こうした場面で、行政資料を一括して管理する部署があり、データが公開されていることは、きわめて大きな意義を持っている。

さらに、個別の学校教育指導やサマーセミナー等の研修機会を通して、教育委員会が学校に対して、行政資料等の公文書を管理する部署の存在とデータの調べ方を伝え、授業改善の指針として指導する機会が実現することが望ましい。今後実現すべき課題としたい。

3年社会科プリント

番 名前

課題

なぜ、浜益村と石狩市は合併したのかを考えよう。

重要語句

- (地方税(市税)) …地方公共団体が独自に集める税金
- (地方交付税交付金) …地方公共団体間の財政格差を調整するために国から配分されたもの
- (国庫支出金) …地方公共団体が行う社会保障や教育、公共事業など特定の仕事に対して国が支出する補助金
- (地方債) …地方公共団体の借金
(借金)

話し合いのまとめ

石狩市は国庫支出金が多かったが、浜益や厚田と合併したら今までより金がおろるから。(企業が tăngえるため)
↓それを利用したら、農業や漁業も市のPRとして使えるため、
地方税も今までより多く集める事ができる。

市民としては、今の生活で満足していると思う人が多かったと思うが、浜益には市にはない物(食べ物や景色)がある。そこで道路の整備なども行い、気軽に来れるようにしたら、市にとってもプラスになると考えたから。

↑
これを行う事によって、お互いに行き来でき、村の人にとっては買い物などが楽になるし、市の人には色々な物を買いに来れる事ができる。

増毛や留毛にも用事がある時でも休けい場を利用する事もできる。

今日の授業のまとめ

国の財政支援があったこと、1住民が満足したサービスを受けれる。
2村には市にはない農水産資源がある。
合併することによって新たな期待がもてる。
市内の施設などの恩恵を受けれる事ができる。